



大阪 同郷者団体の生みの親

# 細川仙之助

明治19年(1886)～昭和16年(1941)

一青出身の細川仙之助は、明治28年(1895)10歳で大阪へ出て、21歳で豆腐業をはじめた。豆腐業で成功した仙之助は、大阪で同郷の者たちでつくる団体「**能友会**」を大正6年(1917)に創設し、初代会長となった。

能友会の支援によって鳥屋地区出身者は豆腐製造業や銭湯業を営み、創設時12名であった団体会員数は、年々増していった。

昭和8年(1933)、地元一青の松尾神社に、仙之助の顕彰碑が建立され、顕彰碑の銘板には能友会104名が記されている。建立時には記念して一青区の曳山が曳きだされた。



細川仙之助の碑(昭和8年 11 月建立)



松尾神社(一青)



顕彰碑の銘板には「大阪能友会」の会員104名の名が記されている。





## 同郷者団体の継承者

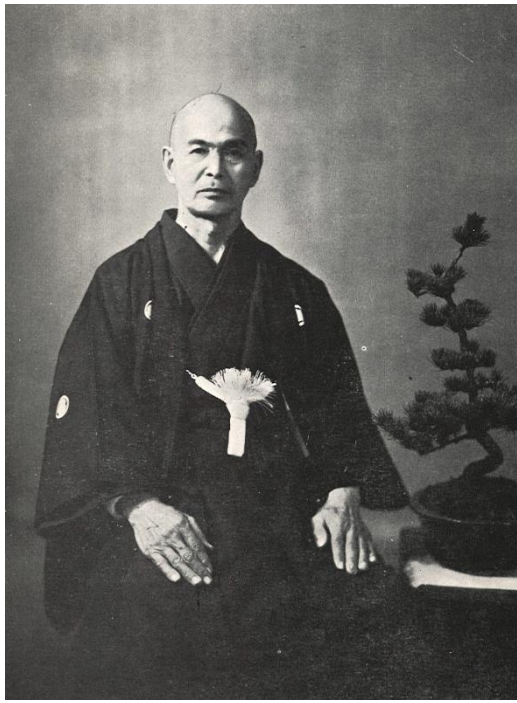
# 中蔵吉三

花見月出身の中蔵吉三は、大正3年(1914)に大阪へ行き、最初は豆腐製造業を営んでいたが、大正15年(1926)に銭湯を創業し、昭和4年(1929)は大阪市東成区中道町233で「三美湯」を営んでいた。昭和10年(1935)には、同郷者団体の互助会「花友会」を設立し、同18年に大阪府浴場連合会評議員となった。昭和44年8月には、花友会創立30周年を記念して、中蔵吉三像と顕彰碑が花見月に建立された。



中蔵吉三像と顕彰碑(昭和44年8月建立)





大阪と地元を往来し  
銭湯と地元の発展に尽くした指導者

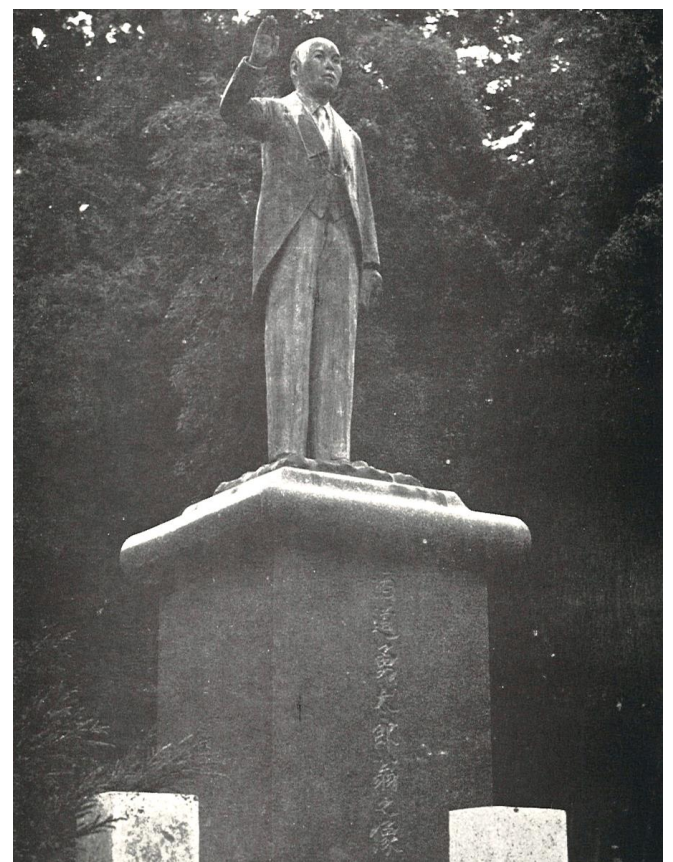
# 酒道勇太郎

花見月出身の酒道勇太郎は、明治27年(1894)年、父七三郎の長男として生まれた。明治42年に鳥屋尋常高等小学校を卒業後、鳥屋乙種農業補習学校に進学、以来、家業である農業に専念するが、昭和4年(1929)には大阪市東成区猪飼野町で「弘徳湯」、弟・勇蔵は同市北区天満橋筋で「高砂湯」を営んだ。勇太郎は地元と大阪を往来し、大阪市内には次々と銭湯を新設し、次男・良蔵、四男・信男ほか一族がその経営にあたった。地元では公共施設に多額の寄附や要職に就き、相馬村の鳥屋町合併に尽力した。

昭和33年8月、勇太郎を顕彰する銅造が、花見月の火宮神社前に建立され除幕式が行われた。勇太郎はこの時64歳で、式典には鳥屋町長、町会議長、教育長らが参列した。

## 【酒道勇太郎の功績】

明治42年～大正2年 相馬村村会議員。昭和24年～同26年 農地委員。昭和23年 瀬戸分校に一族と共にピアノ購入費を寄附。昭和40年 鳥屋公民館建設費500万円を寄附。ほか、町道27号線(花見月から鳥屋小学校)開通経費の多額の寄附、安浄寺座敷建設(七尾市池崎町)、火宮神社(花見月)社標の建立などがある



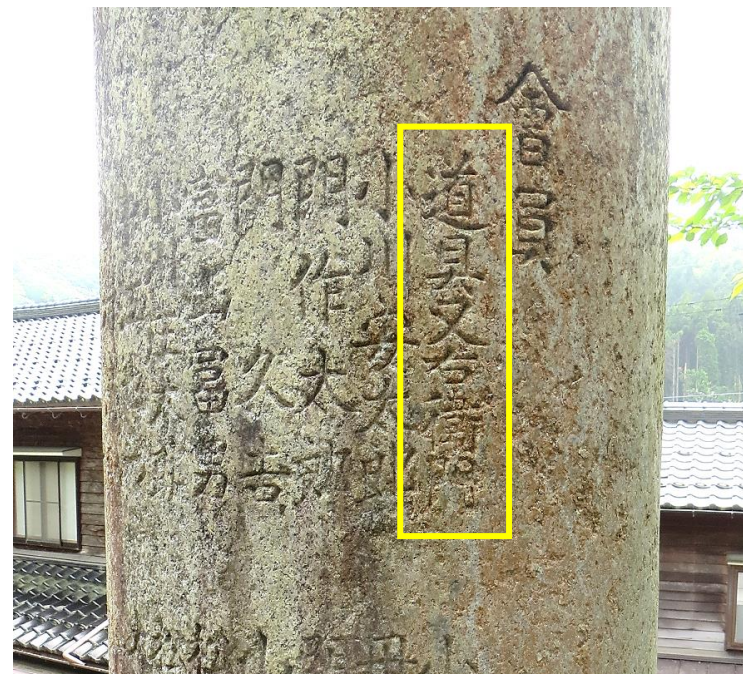
酒道勇太郎 像(昭和33年8月建立)  
※現在、この像は現地には無い



# 東京 同郷者集団の親方 道具 又右衛門

久江出身。道具又右衛門は大正期には東京市本所区松倉町で「**寿湯**」を営み、大正3年(1914)に同郷の松田彦治を小僧として受け入れている。

地元久江の久氏比古神社鳥居には同郷者集団「**東京横浜楽心会**」の筆頭で寄進し、さらに同社境内には、「東京道具睦会」「道具又右衛門」の戦争記念碑が大正10年4月に建立されている。昭和4年(1929)には東京市芝区芝西応寺町で「金春湯」を営んでいた。

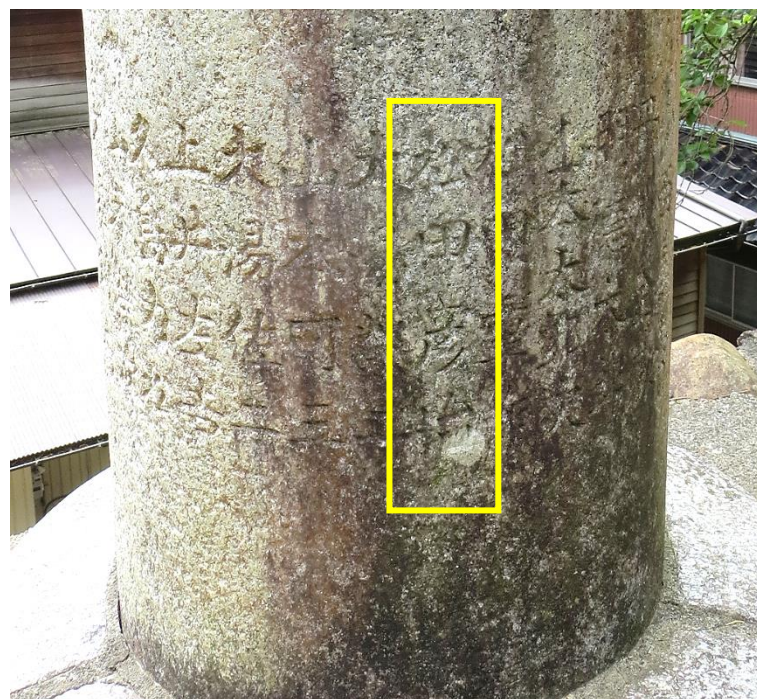


久江・久氏比古神社鳥居  
(「東京横浜楽心会」寄進。大正11年11月  
建立)

昭和恐慌に耐え忍んだ銭湯経営者

## 松田 彦治

久江出身。明治33年(1900)生まれの松田彦治は、大正3年(1914)、数え年15歳で、東京の「**寿湯**」を営む同郷の道具又右衛門を頼って上京。12年間修行した後、独立して東京府葛飾郡砂町の「**鶴の湯**」を経営する。しかし昭和恐慌などの影響で事業が悪化、妻の叔父で同郷の富山富男を頼り、横浜市の福富町にある「**福富湯**」を提供され、昭和5年(1930)12月に横浜へ移住し、その経営を軌道に乗せていった。



久江・久氏比古神社鳥居  
(「東京横浜楽心会」寄進。大正11年11月  
建立)



# 横浜 同郷者集団のリーダー 富山 富男

久江出身。昭和4年(1929)には横浜市中区富士見町で「**越の湯**」を営み、伊勢佐木町浴場組合の組合長を務めた。また、昭和恐慌で困窮した同郷者で東京の松田彦治を救い、横浜の銭湯を提供した。昭和10年頃には、横浜浴場組合連合会の会長、上部団体である神奈川県浴場組合連合会の会長を兼務する実力者であった。能登部出身の永瀬啓太郎を義兄に持つ。



久江・久氏比古神社鳥居  
(「東京横浜楽心会」寄進。大正11年11月  
建立)

# 横浜 浴場用ガラス問屋の資産家 永瀬 啓太郎

能登部出身。横浜市福富町1丁目31番地で浴場用ガラス製品を扱う問屋「永瀬啓太郎商店」を営んだ。昭和4年には甥の永瀬良造は、富山富男が組合長を務める伊勢佐木町浴場組合員で、宮川町で「**宝湯**」を営んでいた。久江出身の富山富男を義弟に持つ。地元能登部下の能登比咩神社には大正12年(1923)に鳥居を寄進している。また能登部下の乗念寺墓地には永瀬家の墓が建ち、明治31年(1898)、横浜の永瀬平蔵が建立している。平蔵と啓太郎との関係は定かではないが、明治期、永瀬家からすでに横浜へ移住していた人物がいたことがうかがい知れる。



能登部下・能登比咩神社鳥居  
(大正12年建立)